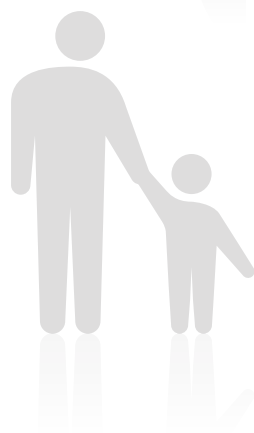
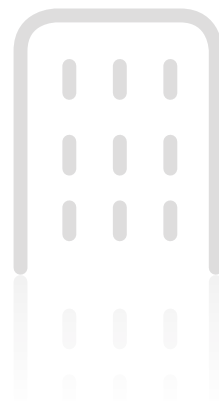


KAJIMAROAD CSR 報告書 2015



企業理念

新しい価値創造に挑戦し、
人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する

活動方針

鹿島道路の企業理念である

「新しい価値創造に挑戦し、人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する」

のもと、公正で開かれた企業を目指し、

良質かつ適正な価格で社会資本の整備を担っていく事をCSRの基本としています。

1

「お客様本位」と「品質本位」を
第一義とする

2

「鹿島グループ 企業行動規範」の順守を
すべての企業活動の大前提とする

編集方針

当社は、CSR報告書をステークホルダーの皆さまと当社をつなぐ大切なコミュニケーションツールとして考えています。

CSR報告書は当社の企業理念である「新しい価値創造に挑戦し、人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する」に基づいた2014年度の数多くの取り組みにおいて、特に重要性が高いと考えた項目の中から、鹿島道路の方針や鹿島グループの基本姿勢に沿って編集しています。また、2014年度版も多くのアンケートをお寄せいただき、多くの貴重なご意見や感想をいただきました。今回の編集に当たりまして、アンケート結果をできるだけ取り入れ、内容の改善に努めています。

わたしたちはCSR活動を充実させ、ステークホルダーの皆さまへ情報を発信できるよう努力してまいりますので、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

「CSR報告書2014」のアンケートより

2014年版でいただいたご意見を参考にし、2015年版では以下を改善しました。

①「担当者の声が充実している点が良かった」

2015⇒私のCSRとVOICEは継続し、現場で取り組む生の声を多く掲載しています。

②「支店や営業所の活動報告も充実させてほしい」

2015⇒活動事例や職場環境整備など、支店や営業所での活動を充実させました。

③「3つの基本方針と活動面の連動性が伝わりづらい」

2015⇒当社の重点活動を中心に、3つの基本方針の行動指針に沿って、報告する構成に変更しました。

●報告対象期間

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)
当該年度以外の内容も一部に掲載しています。

●報告書対象組織

原則として鹿島道路株式会社単体の国内外全部門を対象としています。

●発行時期

2015年11月

●インターネットによる情報提供

鹿島道路ホームページ

<http://www.kajimaro.co.jp>

CSRの取り組み

<http://www.kajimaro.co.jp/corp/csr/index.html>

CONTENTS

社長メッセージ 4

新しい価値創造に挑戦し、
人と地球の豊かで
快適な環境づくりに貢献する



鹿島グループが実践するCSR 6

鹿島道路の重点活動 7

重点活動1:品質 8 お客様の満足と安心をめざして

重点活動2:環境 12 人と地球が豊かで快適な環境をめざして

重点活動3:安全衛生 14 安全で快適な職場環境をめざして

社会貢献 16 地域社会との共生をめざして

経営の基盤 18 信頼される企業をめざして

第三者意見 22

会社データ 23

新しい価値創造に挑戦し、 人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する

代表取締役社長 住吉正信

社会のニーズに誠実にお応えしていく

お客様・地域の方々・協会社・社員など多くのステークホルダーの皆さまには、当社のCSR活動に対しまして日頃よりご理解、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。

国内の建設市場環境は、震災復興や防災・減災、インフラの老朽化対策、オリンピック関連などの需要によって、当面は堅調に推移していくものと予測されます。当社はこの環境に対して、技術力・施工力・経営基盤などを強化し、社会のニーズに誠実にお応えできるよう努力してまいりたいと考えております。

当社は品質・環境・安全衛生の各方針に基づき、CSR活動を展開し、2014年度も様々な活動を行ってまいりました。

〔品質〕

わが国は高度経済成長期以降に整備されたインフラが50年を経過し、老朽化する割合が急速に高まっています。これから訪れるインフラの大規模修繕、リニューアル時代への一つの技術として、既設コンクリート床版の補修後の再劣化防止に寄与する新技術を開発し、今後のさらなる活用が期待されています。

また、これから先わが国は少子高齢化に伴い、労働力人口が減少するとされています。当社は、少人数で効率よくお客様によいものを提供するために、常に生産性向上について考えていかなければなりません。情報化・機械化・プレキャスト化などによる省力化に努めており、その一つの取り組みとして「一工事一改善の取り組み」を実施し、各現場の数多くの改善活動を全社に水平展開することによって改善の輪を広げています。さらに、「情報化施工」では活用事例の展開や研修会を充実させ、施工力のレベルアップと生産性向上に努めています。

〔環境〕

当社の事業において、施工あるいはアスファルト合材製造所では近隣の住民の環境に影響を与えることがあり、特に騒音や振動など周辺環境には配慮に努めています。万が一ご迷惑をおかけ

した場合においても、情報フォローシートによって、関係部署にて直ちに対応できるよう体制を整えています。

当社はリサイクルやCO₂削減、環境にやさしい技術の開発などの取り組みを通じて、地球環境保全に取り組んでいます。製品部門においては中間処理事業を展開し、アスファルトやコンクリートの再資源化を行っています。またアスファルトプラントでは燃料のガス化に取り組み、CO₂削減に努めています。技術開発においては、排水性リサイクリングシステムをはじめとする開発を推進し、今後もさらに環境に配慮した取り組みを充実させていきたいと考えています。

一方、コンプライアンスは、日頃より徹底を図っていますが、独占禁止法に関して、2015年1月に公正取引委員会から立入検査を受けました。現在も調査には積極的に協力していますが、その事実を重く受け止め、本店・支店、各事業所にて周知会を実施し、再度法令遵守について徹底し、その確認を行いました。現在もモニタリングを継続していますが、繰り返しコンプライアンスを徹底してまいります。

当社は鹿島グループの一員として、「鹿島グループ企業行動規範」に則り、高い企業倫理に基づいたコンプライアンスの徹底と企業の社会的責任の遂行をしてまいります。

〔安全衛生〕

安全活動については、2014年繰り返し型の災害が発生してしまいました。当社の協会社で組織された^{るくゆうかい}鹿友会とともに災害事故撲滅に努めています。一緒に働く仲間には絶対怪我をさせないという強い意志と実行力で現場管理を進め、現場視点に立った指導の徹底を図ってまいります。また、2013年に発生した労働基準法違反を受けて、それぞれの業務を見直し、休日取得や労働時間の短縮に努めるとともに、ワークライフバランスの充実を図っています。東京支店では、業務改善時短推進チームによる改善への取り組みが行われています。このプロセス・結果を全社的に展開し、社員がやり甲斐のある働きやすい職場をさらに拡大していきます。

次のステージに向かって

～中期経営計画Challenge the Next Stageの策定～

当社は現在の課題と今後の鹿島道路のあるべき姿を考え、2017年度までの中期経営計画を策定しました。その骨子について、中期基本戦略を次の3つとしました。

コア(核)事業の強化

- 営業・工事・製品・管理部門における標準化の推進と改善継続による経営の質の向上

社会的ニーズの積極的な取り組み

- 維持更新市場への対応強化
- オリンピック関連事業への対応
- 震災復興事業への対応強化
- 海外市場への対応
- 新たなニーズの獲得

働き甲斐のある質の高い会社の構築

- 社員教育の強化
- ワークライフバランスの推進強化
- 新卒採用強化と本支店雇員の待遇改善
- 女性社員の継続的採用と育成
- 職場環境改善

中期経営計画の“Challenge the Next Stage”というサブタイトルのとおり、当社がさらに成長していく、次のステージに向かっていく、まさに今がその分岐点であると捉えていますので、この計画を確実に遂行し、社会の健全な発展に寄与していきたいと思いをします。

皆さまから期待される企業として

鹿島道路のCSRは、企業理念である「新しい価値創造に挑戦し、人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する」のもと、公正で開かれた企業を目指し、良質かつ適正な価格で社会資本の整備を担っていくことを方針としています。

当社は舗装事業を中心とした土木事業、アスファルト合材製造・販売事業、建築事業などを展開しています。道路は人々の生活を支え、経済活動の大動脈となります。また、災害時には命を守る、あるいは物資を運ぶために最重要となる社会インフラの役

割を果たしています。さらに、人々が集う生活環境空間をつくるなど様々な機能があります。

当社は品質・安全・環境など様々な面において、施工の改善や技術開発、機械開発に取り組み、事業を通じて培った技術を人々の生活や社会の発展に役立てることによって社会的責任を果たしていきます。そして、当社を支える「人材」を何よりも重要と捉え、人材の確保や育成に注力し、皆さまから期待されるとともに、これからもその期待に応え続ける企業として、企業価値の向上に努力してまいります。

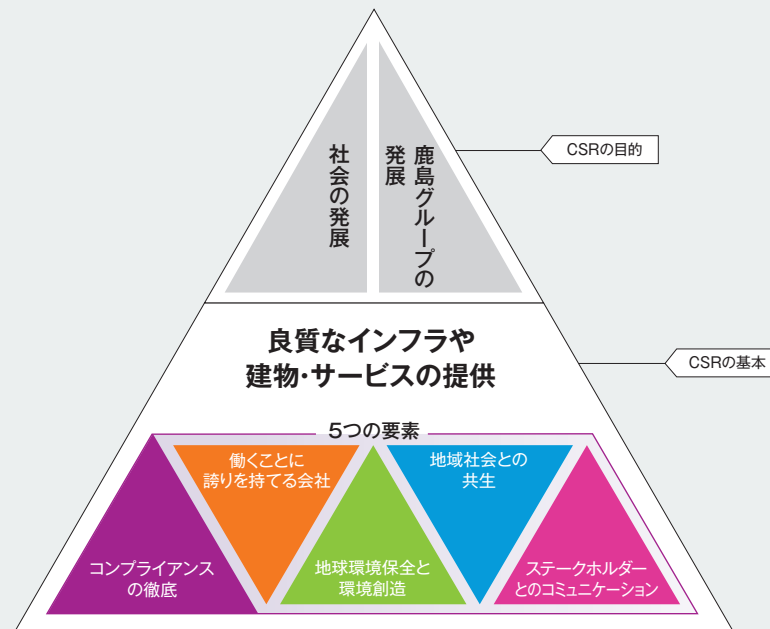
ステークホルダーの皆さまとともに

当社は大変多くのステークホルダーに支えられています。2014年度の当社の業績は受注高1260億円、売上高1292億円、経常利益86億円という好業績で終えることができましたのも、日頃からのステークホルダーの皆さまからのご協力、ご指導の賜物と感謝申し上げます。当社は次のステージに向かって挑戦し続けてまいります。これからもステークホルダーの皆さまと良好な関係を築き、ともに発展してまいりたいと思いますので、温かいご指導とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



鹿島グループが実践するCSR

鹿島グループは、鹿島建設の「社業の発展を通じて社会に貢献する」という経営理念に基づいて「CSRの枠組み」を定め、グループ全体でCSR活動を進めています。



CSRの目的

鹿島グループのCSRの本質は、社会や時代の要請に応え、公正な企業活動を通じて多様なステークホルダーと良好な関係を築き、保っていくことと考えています。建設業の成果は長い期間にわたって、直接社会や人々の生活を支えるものであり、社会や顧客の永続的な信頼のもとに、社会の持続的な向上と建設業、ひいては当社の安定的な発展を共存させていくことが、鹿島グループのCSRの実践で目指すものです。

CSRの基本

「CSRの目的」を果たすためには、何よりもまず高い企業倫理と強い使命感に貫かれた誠実な企業であるとともに、たゆまぬ研鑽による高度な技術力をもとに、良質なインフラや建物・サービスを提供し続けることが肝要です。社会や顧客からの信頼の基盤は確かな品質にあります。「良質なインフラや建物・サービスの提供」によって信頼を築き、社会への貢献と、顧客の利便・快適・安心の充足を通じて永続的な評価を受けることが、鹿島グループのCSRの基本です。

鹿島グループ企業行動規範

1 | 公正で誠実な企業活動

- 1 法令の遵守と良識ある行動
- 2 社会のニーズと顧客満足の重視
- 3 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引
- 4 知的財産、その他の権利・財産等の保護
- 5 政治・行政との透明な関係
- 6 反社会的行為の根絶
- 7 企業会計の適正性確保

2 | 社会との調和

- 1 社会との良好な関係の構築
- 2 あらゆる国、地域における文化、慣習の尊重
- 3 適時、適切な開示とコミュニケーション

3 | 人間尊重

- 1 差別や不当な取扱いの禁止
- 2 安全で働きやすい職場環境の確保
- 3 能力、個性を尊重した人事処遇、人材育成
- 4 児童労働・強制労働の禁止

4 | 環境への責任

- 1 環境問題への取り組み

5 | 企業行動規範の運用

- 1 教育と啓蒙
- 2 実効ある社内体制の整備

6 | 違背する事態が発生した場合

- 1 再発防止と説明責任
- 2 厳正な処分

鹿島道路の重点活動

鹿島道路は「品質」「環境」「安全衛生」の3つの方針を定め活動しています。また、社会貢献への取り組みやコンプライアンスの徹底をはじめ経営基盤を強化し、ステークホルダーの皆さまの期待に応えるように努力しています。

P08



重点活動 1

品質

品質方針

お客様と社会の要求を把握し、品質と信頼を追求するとともに、全ての活動における仕事の質を向上させて、お客様の満足と安心いただける製品・サービスを提供する。

- 1 お客様志向(思考)
- 2 革新への積極的取り組み
- 3 継続的レベルアップ
- 4 実践の容易化

鹿島道路の重点活動

P12



重点活動 2

環境

環境方針

鹿島道路は、社会資本整備を担う建設業の一員として、人と地球の豊かで快適な環境作りに重要な役割と責任を担っている。この使命を果たすことにより、地球環境保全と経済活動が両立する持続的発展が可能な社会の実現に貢献する。

- 1 汚染予防と環境負荷の低減
- 2 環境保全に関わる技術開発の推進
- 3 環境関連法規及び当社が同意した要求等の順守
- 4 情報開示を含めた社内外のコミュニケーション



P14

重点活動 3

安全衛生

安全衛生方針

人命尊重の安全衛生理念に基づき、法規制等を遵守し、安全衛生活動を積極的に推進して、労働災害の防止及び安全で快適な職場環境の形成を図り、生産性の向上に資するとともに社会の信頼確保と会社の持続的な発展を目指す。

- 1 労働安全衛生に関する法規制及び社内規程の遵守
- 2 協力会社と一体による安全衛生活動の推進
- 3 安全施工サイクルの運用による災害・事故防止
- 4 ワークライフバランスの推進と安全な職場環境の形成

P16



社会貢献

地域社会との共生を
めざして

P18



経営の基盤

信頼される企業を
めざして



お客様の満足と安心をめざして

1 お客様志向（思考）

○ お客様満足度シートの活用

鹿島道路では施工完了後にお客様に「お客様満足度シート」としてアンケートにご協力いただいています。

活用手順としては、

- ①お客様に対応・工期・出来栄え・アフターケアなど10項目を評価いただく
- ②支店が収集したアンケートは本店にて内容の分析を行う
- ③結果・分析内容について全支店へフィードバックし、改善を図る

事例

「営業マンの稼働中現場への訪問」を評価いただくご意見に対し、営業マンの現場訪問頻度を増やし、併せて現場安全パトロールを行う事を2014年度から始め、お客様から高い評価をいただいています。

2 革新への積極的取り組み

○ 定張力サポートシステムの開発

斜面上での施工機械の安全を保持しつつ、施工機械自体の自在な移動を可能にした定張力サポートシステムを開発しました。

主な使用用途はダムや貯水池斜面での切削機やスリーパーのサポートになります。斜面上での作業は機械の保持が問題となり、斜面角度が緩く機械の転倒角度以内で十分に安全作業ができる場合を除き、安全のために上部からのサポートが必要となります。しかし、施工機械の移動をウインチワイヤの巻き上げ下げに依存しては施工機械の自由度が奪われ、作業効率が落ちてしまいます。そこで、定張力サポート機構を搭載した油圧ウインチにより、施工機械重量の斜面分力と相当分の力でサポートすることにより自走で自在に斜面上を移動することができ、施工機械に必要以上の負荷を与えず施工が行えるようになり、水平な場所と同等の作業性で施工することが可能となりました。



貯水池改修工事での切削状況



定張力サポートシステムを用いた斜面切削作業

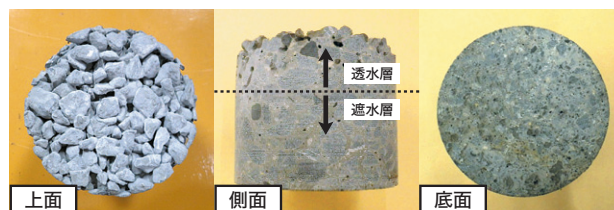
○ 新型ハイブリッドコンクリートの開発

わが国の道路に占めるコンクリート舗装のシェアは5%程度であり、非常に少ない水準です。しかし、近年では適材適所にコンクリート舗装を有効活用しようとする気運が高まっています。このような中、鹿島道路ではコンクリート舗装の適用性をさらに高めることを目的に「新型ハイブリッドコンクリート」を共同開発※1しているところです。新型ハイブリッドコンクリートは、チクソトロピー性※2を利用して、1層施工で、表面はポーラスな形状で騒音低減機能および路面排水機能を持ち、内部から底面は遮水機能を持つ、二層構造のコンクリート舗装です。

新型ハイブリッドコンクリートは騒音低減機能を有するため、都市内道路への適用はもちろんのこと、遮水層を有することから、土工部だけでなく防水機能を必要とする橋梁上の舗装としての適用も期待されます。

※1 共同開発：（一財）阪神高速道路技術センター、住友大阪セメント㈱

※2 チクソトロピー性：物質に、あるせん断速度で振動などを与えると粘度が低下し、せん断速度を減少させると粘度が回復する現象



新型ハイブリッドコンクリートの断面



新型ハイブリッドコンクリートの数均し状況

わたしたちがつくっている道路は、完成後に多くの方が利用します。自動車で走って乗り心地がよく、歩行者が歩いて安全な道路でなければなりません。乗り心地をよくするために常に創意工夫を忘れずに、また、利用者が安全であるために設計を確認して、必要があれば修正します。利用者の立場に立つてつくられた道路こそ、発注者が望む商品であると考えています。

東北支店 仙台営業所 担当課長 本田 浩典



私の
CSR

『浸透性KSボンド工法』について 全国初全面塗布採用

1960年前後の高度経済成長期に構築された橋梁が40年～50年近く経過してきており、まもなく更新の時期を迎えます。昨今、一部の橋梁では損傷が目立ち始めており、このまま老朽化が進むと一斉に修繕や更新の時期を迎えることとなります。この課題に対して、当社では『浸透性KS(KAJIMA SUPER)ボンド工法』を開発し、大規模な修繕に至る前に既存橋梁舗装の耐久性を確保し、延命化を図れるような試みをしています。このたび、2015年3月に神戸大橋の取付道路部において本工法が全国で初めて全面塗布によるものとして採用され、今後の橋梁の長寿命化方策に貢献していきます。

『浸透性KSボンド工法』とは、コンクリート床版補修における機械研り作業に伴うマイクロクラックや脆弱部に、「浸透性KSプライマー」を浸透させて補強し、「KSボンド」にて補修コンクリートとの接着接合を図り耐久性を高めたものです。



神戸大橋全景



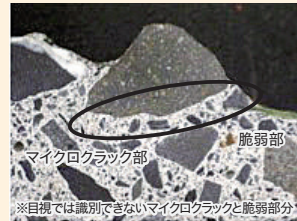
浸透性樹脂の塗布状況



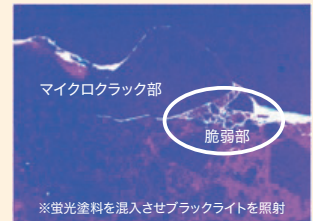
コンクリートの打設状況



マイクロクラック部や脆弱部への「浸透性KSプライマー」の浸透状況を下記に示しますが、毛細管現象によりひび割れに充填されていることが確認できます。



※目視では識別できないマイクロクラックと脆弱部分
マイクロクラック部・脆弱部(切断面)



※蛍光塗料を混入させブラックライトを照射
蛍光塗料による浸透性の確認

道路橋コンクリート床版は、輪荷重の繰り返し载荷を直接受ける部材であり疲労による変状が生じます。特に積雪寒冷地においては、この疲労に加えて、さらに塩害や凍結融解など上面からの複合的な劣化による変状が発生しています。このような変状に対する補修・補強は床面上面からの対策が有効であり、本工法の適用により耐久性の確保に寄与しています。

Voice

浸透性KSプライマーの施工に当たり、事前に本店の方々から使用量に関する技術的アドバイスを受けました。具体的には、「浸透性KSプライマーは材料の性質上、クラックへの高い浸透性があり、損傷箇所の研り作業を粗雑に行くと研り面に多量のマイクロクラックを発生させることになり、材料不足や原価の圧迫を招くことになるので注意が必要である」という内容でした。そこで、床版劣化部の研り作業では入念にたたき検査を行い、研り範囲を最小限に留めることを心掛けました。また、研り深さについても粗研りの後、再度たたき検査を行い、必要以上に研らないよう心掛けました。

これらの対応の結果、プライマーの使用量は、ほぼ設計通りで工事を終了することができました。また、健全部への研り作業の影響を最小限に抑え、橋梁にとって負担の少ない施工を行うことができました。



関西支店
関西西南営業所
課長代理
稼勢 信雄



お客様の満足と安心をめざして

3 継続的レベルアップ

研修・講習の開催

社員のスキルアップに向けて、本店および支店において土木・建築・製品・機械・営業・事務など各分野で研修などの集合教育を実施しています。

中四国支店の集合教育の事例

中四国支店では、年2回土木系社員が集まり、改善事例や工事管理、事故事例について学んでいます。また、広島県交通安全協会の方による交通安全についての講義を受け、事故防止に努めることを確認しました。現状の課題を中心としたテーマとなっており、前向きに改善していくことを確認する教育の場となりました。

海外現地法人KRV ベトナム現地スタッフへの舗装に関する講習

海外現地法人KRVを設立し、当社の社員が現地スタッフへ技術指導を行っています。2014年度は、

- ・ AASHTO(米国全州道路交通運輸行政官協会)の道路構造設計法
- ・ TA法(日本)による道路舗装構造設計
- ・ 日本の舗装技術

に関する説明を行いました。ベトナムの舗装技術は日本に比べて新しい技術の導入が進んでいないため、今後も講習を行い、より高い品質の作品づくりを目指しています。



講習の様子

一工事一改善の取り組み

当社では、各現場において「一工事一改善」を励行しています。治工具の活用・省力化・歩掛り向上・新技術の活用など、作業現場の改善に努め、現場での実績を本店生産技術本部にて情報収集し、全社に水平展開することによって、さらに改善の輪を拡げ、意識を向上させるとともに、生産性の向上につなげています。

一工事一改善活動 2014年度件数

改善のテーマ				合計
施工	設計	安全	その他	
265	37	70	11	383

改善事例報告会

9月17日、10支店および本店から約50名が参加し、施工改善事例報告会を開催しました。各施工現場の改善事例を全社的に展開していく活動として毎年開催しています。

各支店の代表者が施工現場における施工・安全・時短などの具体的な事例に関して、「背景・課題」、「解決のプロセス」、「工夫した点」と「その改善効果」について発表を行いました。各支店への資料配布やイントラへの掲載、技術情報誌「KIT」などにより各施工現場の様々な活動が全社に展開されています。



施工改善事例報告会の様子

鹿友会との改善活動

当社の協力会社で組織されている「鹿友会」は、品質の向上・工事施工技術の研鑽と指導、災害防止、安全衛生管理に関する研究と推進などを目的としており、当社とともに日々現場で協力しながら一体となって品質の確保や無事故・無災害に向けた取り組みを行っています。また、品質や安全をはじめとする問題点や要望事項などについて、当社と鹿友会会員が意見交換会を開催し、お互いの向上に向けて取り組んでいます。

東京支店工事部では、現場の品質不良ゼロを目指して取り組んでいます。そのために「品質監視チーム」を立ち上げ、事前に品質不良となる要因を探り日夜現場を後方支援しています。また、品質確保には技術伝承が重要と考え、繰り返し技術研修や教育を行い、鹿島道路ブランドは品質が良いと評価されることが私の職責と考えています。

東京支店工事部 技術試験所 所長 武藤 博之



4 実践の容易化

情報化施工の事例紹介

1 情報化施工機器の効率的運用

情報化施工の発展・普及拡大を目的とし、継続的に全国各地へ情報化施工機器・重機の配備を行ってきました。情報化施工の代表的技術として知られる3D-MCは、測量機器(主にトータルステーション)と三次元設計データを用いて重機を制御するシステムです。

当社では、施工時以外でもトータルステーションと三次元設計データを活用することで、情報化施工機器の効率的な運用を図っています。施工後の出来形計測や、舗装機械などの高さ制御に用

いるセンサーライン設置、舗装型枠設置など幅広い活用と、イントラネットを用いて活用事例の水平展開を行っています。2014年度は修繕工事において必要となる事前測量や、切削深さのマーキング作業などにも活用しました。



切削深さマーキング作業

2 効果的な情報化施工研修会を目指して

2006年度より、毎年継続的に情報化施工研修会を実施してきました。2014年7月の研修会で、14回目の開催となり、これまでの研修参加人数は累計283名となっています。当社の現状、要求される能力、時代のニーズ、有用な新技術などの情報を収集し、毎年研修内容の見直しを行ってきました。今回の研修会では「民間工事への3D-MCの活用」に重点を置き、実践を想定した三次元設計データの作成講習や、トータルステーションを用いた丁張設置実習、現場での3D-MCトラブルに対応したトラブルシューティング実習を行いました。研修終了後のアンケートには、「自分の現場で活用したい」など、積極的な意見が多くみられました。研修会受講前後に習熟度確認テストを実施することで、当研修の効果を測り、

より実りある研修会を目指しています。



トータルステーションを使った丁張設置



3D-MCモータグレーダ実習

3 路盤施工マニュアルの活用

熟練オペレータ不足が問題とされてきた昨今、3D-MCは定量的な品質を確保する上で有効なツールとして幅広く活用されてきました。3D-MCを用いて品質向上に努める一方で、熟練オペレータがこれまで培ってきた「効率的に施工するためのノウハウ」は徐々に薄れてしまうことが懸念されます。3D-MCの普及に伴い、熟練オペレータ不足が軽視されがちですが、熟練者の経験に

基づくノウハウ+3D-MCを使うと絶大な効果を発揮することは間違いありません。このノウハウを詰め込んだ「路盤施工マニュアル」を作成しました。材料の荷下ろしに始まり、碎石の均し順序、仕上げの手順、安全注意事項も記載しています。当マニュアルを水平展開することで、施工ノウハウの伝達に少しでも役立て、熟練者の増加につなげたいと考えます。



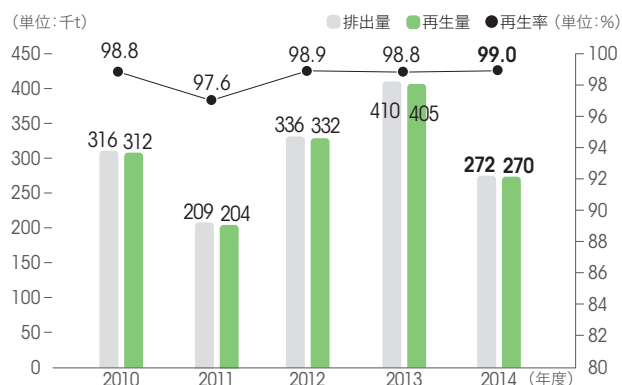
人と地球が豊かで快適な環境をめざして

1 汚染予防と環境負荷の低減

○ 産業廃棄物排出量と再資源化率

2014年度の産業廃棄物排出量は272千t(下図)で、内訳はアスファルトコンクリート塊とコンクリート塊で92%弱と、大半を占めています。当社では、循環型社会への取り組みとして全国に中間処理施設を設け、アスコンやコンクリートのリサイクル事業を展開しています。2014年度の再資源化(再生)率は、上記の2つに限ればほぼ100%です。

産業廃棄物排出量と再資源化率の推移



○ 製品部門におけるCO₂削減

製品部門では燃料のガス化や高効率バーナーの採用によって環境負荷低減に取り組んでいます。

昨年赤城アスコンのアスファルトプラント建替えを行い、燃料をA重油から都市ガスに燃料転換しました。これにより、CO₂排出量を25%程度削減することができました。

また、最新の設備を導入したことにより、使用電力量が“10.75 kWh/t”⇒“8.26kWh/t”と23%削減することができました。(デマンド値も“432kW”⇒“307kW”に削減)



赤城アスコン

製品部門CO₂発生量と原単位(*当たり)発生量



中部支店での事例

○ 新東名高速道路 岡崎舗装工事での水質検査

各施工段階における油脂(機械油脂、アスファルト乳剤)、アルカリ(セメント系材料)、濁水(土砂)などの汚濁水の流出がないかを定期的に調査し、現場の防災対策へ反映させるとともに、周辺の環境悪化を予防しています。検査結果は、発注者・自治体などに報告されています。

○ 知立合材製造所による環境測定実施

周辺の環境に悪影響を与えないよう、専門業者によって騒音・振動・臭気・粉塵を定期的に測定し、特に問題のないことを確認しています。

2 環境保全に関わる技術開発の推進

○ 排水性舗装のリサイクル技術

排水性舗装※は、走行安全性の確保や騒音低減などの特長を有し、主要幹線道路はもちろん高速道路においても広く採用されています。一方、近い将来これら排水性舗装の更新が一気に訪れることが予想されており、排水性舗装の再生技術の確立は、再生資源の有効活用の観点から極めて重要な課題となっています。

当社は、高速道路総合技術研究所(NEXCO総研)との共同研究により、サテライトプラント方式による排水性舗装のリサイクルシステムを開発し、2012年11月、本技術が高速道路の本線に初めて適用されました。既設の排水性舗装を撤去し、その発生

当工場は、2014年7月に最新設備の工場に建替えました。新工場は、環境負荷を軽減するために都市ガスを利用することでCO₂の削減を図り、また、骨材の品質に配慮した採光型のヤードを設置しました。工場の設備能力を最大限に活用し、環境に配慮するとともに、高品質な製品を安定供給しお客様に喜んでもらえるよう日々取り組んでいます。

関東支店 前橋合材製造所 係長 長沢 茂



材を再利用して新しい排水性舗装を構築する本技術は、発生材を現地で再利用できる極めて優良な再生技術と言えます。当該舗装は施工2年経過時点で、通常の排水性舗装と遜色のない供用性を確保していることを確認しています。

※ 排水性舗装：雨水を路面下に浸透させ、車両走行時の水はねやハイドロプレーニング現象の防止、車両走行騒音の低減が期待できる舗装



高速道路本線での施工状況



施工2年後の路面状況

○ インブルクレイ工法

当社は、天然素材による新しいグラウンド舗装工法「インブルクレイ工法」の展開を開始しました。

インブルクレイ工法は、従来廃棄されることの多かった檜や杉などの樹皮を原料とするチップ材を土と混合し、グラウンドなどに適用する土系舗装工法です。本工法の適用により透水性を損なうことなく泥濘化抑制効果が得られるほか、檜・杉の持つ天然の抗菌作用から雑草の繁茂の抑制が期待できます。



インブルクレイ工法の施工状況

○ 集塵装置付スリーエスマシン

スリーエス舗装とは、開粒度アスファルト混合物の空隙に、特殊セメントミルクを注入・硬化させることにより圧密・流動に対し優れた抵抗性を発揮する半たわみ性舗装です。セメントミルクは大規模工事では生コンプラントで大量に製造しますが、中小規模工事では作業現場内でセメントと水と添加剤を混合して製造します。しかし、この作業ではセメントは微粉末であるため発塵性が高く、粉塵が飛散してしばしば問題となっていました。そこで、ミキサ投入口と空袋仮置きスペースに集塵ダクトを設け、主にセメント袋の開封・ミキサへの投入・空袋の処理作業時に発生するセメ

ント粉塵を効率的に集塵する粉塵防止システムを開発しました。また、集塵機に吸い取られたセメント粉塵は、特殊な耐セメント用のフィルタに捕獲されます。フィルタはコンプレッサによるエアパルスで一定時間の間隔で衝撃を与えられ、捕獲したセメント粉塵が払い落とされることによって集塵能力を一定に保ちます。これにより周辺環境および作業環境の改善を図ることができます。



宮島SA施工状況



ミキサへのセメント投入状況

3 環境関連法規および当社が同意した要求等の遵守

当社は、2014年度の施工、製造、設計、技術、オフィスなど、すべてに関する環境関連法規および当社が同意した要求などを100%遵守しています。

4 情報開示を含めた社内外のコミュニケーション

当社は社内外からの情報を「情報フォローシート」により社内へ周知し、関連部署にて検討し、情報をいただいた方への対応を図っています。2014年度は一般情報が23件、苦情情報が15件ありました。

一般情報の事例

【情報】(台風時にお客様の施設にて)土砂崩れが発生し、車道が塞がれてしまい、対応してもらいたい。

【対応】現地を確認し、樹木の伐採、土砂撤去、法面の養生などを行い、二次災害を防いだ。

苦情情報の事例

【情報】(現場の近隣住民の方から)作業の音がうるさいので、何とかしてもらいたい。

【対応】連絡をいただいた近隣住民の方に事情をお聞きし、現場内にて対策を取り、時間帯を調整して作業することにした。

重点活動 3： 安全衛生



安全で快適な職場環境をめざして

1 労働安全衛生に関する法規制及び社内規程の遵守

○ 活動実施状況

2014年度は、目標に死亡・重篤・重大災害0件、度数率1.00以下、強度率0.02以下を掲げ安全活動に努めましたが、重篤災害が1件発生しました。度数率および強度率は目標をクリアしています。重篤災害の発生に当たっては、その反省を踏まえ、本支店幹部社員による現場緊急パトロールを実施し、その再発防止に努めました。また、重点課題を「教育の充実による災害事故予防」「定期的現場点検・継続指導」「再発防止」「副産物の適正処理」とし、計画に基づき実施を行いました。さらに事故の事例集などを配付し、繰り返し災害を発生させないように日々現場において安全活動に励んでいます。

2014年度目標値と実績および活動実施状況／2014年度重点課題と実施項目

	死亡・重篤・重大災害	度数率	強度率
目標	0	1.00以下	0.02以下
実績	1件	0.62	0.02

重点課題	実施項目	実施計画	実施状況 (3/31 現在)	補足
教育の充実による災害事故予防	各種教育	20回/年	教育17回 周知28回	職長・統括・周知会・環境教育時に実施
定期的現場点検・継続指導	安全環境 パトロール	120現場/年	191現場	
再発防止	災害事故事例の展開		78事例 (内、参考事例5)	HPに掲載 (リスクアセス対策付)
副産物の適正処理	教育	20回/年	15回	職長・統括・周知会・環境教育時に実施
	パトロール	50現場/年	92現場	

2 協力会社と一体による安全衛生活動の推進

○ 安全パトロールなどの活動

当社では、協力会社(鹿友会)と一体となって安全衛生活動の推進を図っています。本店・支店によるパトロールをはじめ、定期的に各支店における鹿友会会員によるパトロールを行っており、

災害事故防止に努めています。また、パトロール後の災害防止協議会では、社員と鹿友会会員によるパトロール時の指摘事項の確認や安全衛生に関する情報の周知などが行われ、会社全体での取り組みを図っています。



安全パトロールの様子



○ 鹿友会との安全活動

当社が施工や合材製造などにおいて、安全で高い品質を保つには協力会社の存在が欠かせません。当社の協力会社で組織する「鹿友会」は全国976社あり、安全や品質をはじめ様々な部門で協力していただいています。今後も当社と鹿友会会員各社のお互



安全大会の様子

いが協力し合いながら、連携を強化し、安全と品質でお客様や地域の皆さまに貢献していきたいと考えています。

3 安全施工サイクルの運用による災害・事故防止

○ 安全施工サイクル

建設現場において発生する労働災害は、その多くが施工と安全を一体化した安全衛生管理活動が定着化していないことが原因となっています。当社では、現場における安全衛生管理活動をサイクルとして実施することを体質化、習慣化するため、「安全施工サイクル運動」を推進しており、安全施工サイクルに沿った活動を展開しています。



私が入社した当時の安全管理は杜撰なもので、自分の身は自分で守れ!の風潮が強く、怪我と弁当は手前持ちといった言葉が安全スローガンのように使われていました。最近では安全ハザードの強化はもとより、安全対策のルール化も数多く、それを守るべく出前安全教育と称し、業者に出向き膝を交え、同じ目線で話をさせてもっています。ルールは実行者が理解し納得することで守られます。私の務めも刻一刻とfinalに近づいていますが、無事故・無災害を目的とし、余生に体力を残す程度に頑張ります。ご安全に!!

横浜支店 安全専門部長 杉山 全

●「もったいない事故事例集」と「KY※活動展開説明書」

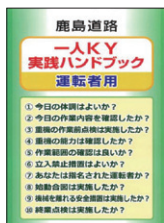
2014年『“もったいない事故”事例集』と『KY活動展開説明書』を作成し、社員および協力会社に配布しました。

『もったいない事故事例集』は、当社における過去7年間の労働災害の中で、一声かけや一人KYを実施することによって防止することができた、“もったいない事故”50例をまとめたものです。また、『KY活動展開説明書』は現地KY・一人KYの標準マニュアルとして作成しました。これらを現場で活用し、災害事故防止に努めています。

期日	場所	活動内容
2014年7月14日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月15日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月16日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月17日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月18日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月19日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月20日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月21日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月22日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月23日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月24日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月25日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月26日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月27日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月28日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月29日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月30日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流
7月31日	池田、土佐	活動内容 池田町に到着し、町民と交流

「もったいない事故事例集」

※ KY：危険予知の略



「KY活動展開說明書」

(オペレーター・
運転者編)

4 ワークライフバランスの推進と 安全な職場環境

◎ ワークライフバランスの推進

当社では、社員が仕事と家庭を充実させることができ、豊かな生活を送れるよう職場環境の整備をより一層推進し、次世代育成支援対策として一般事業主行動計画を策定し、ワークライフバランスの実現に向けて取り組んでいます。

計画内容(計画期間:2015年4月1日～2025年3月31日)

- ①子供が生まれる際の父親の休暇取得の推進
- ②3歳以上の子を養育する労働者に対する短時間勤務制度
- ③希望する労働者に対する勤務地、担当業務の限定制度の実施
- ④所定外労働の削減のための措置の実施

● 時短・休日取得推進の取り組み

当社は2013年に発生した労働基準法違反を受けて、業務の時間短縮やワークライフバランスの充実を図るため休日取得の推進を行っています。

主な取り組み事例

- 労働時間と休日取得の社内システムによる確認と指導
- ノー残業デー（毎週水曜日）、第二土曜日の休日取得を促す全社一斉メールの配信
- ポスターなどによる啓蒙 など



◎ 業務改善時短推進チームによる活動

2014年11月東京支店において「業務改善時短推進チーム」を発足し、社内ルールに沿った適正処理の改善指導と時短・土休を推進しています。工事管理及各書類のチェック、残業理由を把握することにより業務の改善を図っています。そして時短および休暇を取得し、趣味や家族とのコミュニケーションが取れる環境づくりを目指しています。また、社員よりアンケートを取り、業務改善には社内書類の簡素化・省力化・統一化が必要との意見が最も多く、時短については環境づくり、社員の増員、社内書類の簡素化・省力化などが改善策として多く挙げられました。改善事例として、モバイル環境の整備を行い、現場からでもネットワークを利用した書類のやり取りを可能にし、効率化に一役買っています。

● 職場環境整備

関東北営業所の建て替え

2014年11月に関東北営業所を建て替えました。当社は職場環境を快適にすることによって、社員の働きやすさや働き甲斐の創出に努めています。



關東北營業所外觀

主な改善点

- 以前は1階が宿舍、2階が事務所であったため、足音などが宿舎に響き、くつろぐことができない面があり、建て替えにより改善されました。
- トイレは男女兼用でしたが、男女別々に分けました。
- 防犯カメラを設置し、セキュリティ面の向上を図りました。

神戸合材製造所 事務所建て替え

1989年に建てられた神戸合材製造所の事務所は、25年が経過し、老朽化が著しく2014年12月に建て替え、外で作業する社員のために休憩室の中にシャワー室を設けてリフレッシュできるようにしました。また、夜間の出荷体制を変え、宿直する社員が快適に仕事ができるよう、製造所の外に社員寮として部屋を借りて社員のワークライフバランスの充実を図りました。



神戸合材製造所事務所棟



社員寮(共有スペース)



地域社会との共生をめざして

1 本業を通じた活動

○ 広島土砂災害支援

2014年第2四半期は「道の日」の取り組みと兼ねて8月20日をボランティア・ロード清掃活動の日と予定していましたが、20日未明からの豪雨で広島土砂災害（犠牲者75人）が発生し清掃活動は中止となりました。災害発生から2日後、住吉社長が国土交通省中国地方整備局を訪問して「災害支援」を表明しました。広島国道事務所からも要請があって、8月26日、被災地の一つである安佐南区緑井の災害箇所現地立会いを行い作業に入りました。現場は家屋2軒が流失、山から流れてきた流木が家屋にかかり、流路沿いには大石がゴロゴロといくつも転がっていました。バックホウをはじめ重機で瓦礫を取り除き、被災している方々が少しでも生活しやすいように作業を行いました。



広島豪雨災害支援現場の様子
(安佐南区)

○ 労働基準監督署主催研修会での講義

金沢労働基準監督署から依頼を受け、監督署主催の研修会（石川県内事業者90名参加）で、本店安全環境部の郷堀担当次長が講義を行いました。講義では、『作業員の命を守る』『道路を利用する方々に迷惑を掛けず』『道路を利用する方々に迷惑を掛けず』などをテーマに事例を交えながら、ルール確認の徹底について説明を行いました。参加した県内事業者の方々には、道路修繕作業の安全対策について理解を深めていただくことができ、石川県の地域に役立つ活動となりました。

○ 新東名高速道路岡崎舗装工事合材工場見学会

一般社団法人日本アスファルト合材協会設立30周年の記念行事に関連し、新東名高速道路岡崎舗装工事のアスファルト合材工場に愛知県岡崎市の生平小学校の生徒約70名を招き、見学会を行いました。アスファルト舗装のつくり方、本工事で扱っている排水性合材について講義を行い、工場見学ではアスファルト合材の製造過程の説明をしました。



講義の様子



プラント見学



工区内での記念撮影

Voice

2014年12月18日に地元の小学校の生徒たちを招待し、合材工場見学会を行いました。開催前は生徒たちがなじみの薄い舗装や合材に興味を持ってくれるかどうか不安でしたが、合材の製造過程や建設中の高速道路の様子を間近で見ることができ、貴重な体験になったとご好評をいただきました。今後もこのような地域との関わりを大切にしたいと考えています。また、この見学会によって一人でも多くの子供たちが舗装や合材に興味を持ち、将来建設業を志望するきっかけとなることを願っています。



岡崎舗装工事事務所 所長
田口 賢治

中四国支店で事務を担当しています。中四国支店では年4回ボランティア・ロードという、街の清掃活動イベントに参加しています。地元地域の方々と清掃活動をし、綺麗になっていく街はとても気持ちがよく、社会貢献している実感が湧いてきます。地域社会において、ゴミのない環境を目指し、快適な職場環境をつくっていききたいと思います。

中四国支店事務部 丹羽 俊輔

私のCSR



2 地域社会とのコミュニケーション

○ 工事完成後の地域住民ウォーキング開催

関西支店では、丹波綾部道路広野才原地区舗装工事完成後、発注者である国土交通省の地元住民の方々への説明や、住民の方々の要請によって、ウォーキングを実現することとなりました。各工事代表担当者が説明をして当社は案内を担当し、道路の意味や工事について理解を深めていただきました。



地元住民の方々と記念撮影

○ ボランティア・ロード

中四国支店では、以前から「道の日(8月10日)」の行事の一環として当時の支店近くの国道54号の歩道や植樹帯の清掃活動を行っていましたが、2010年8月からは国土交通省 中国地方整備局広島国道事務所と「広島国道ボランティア・ロード」の協定を取り交わし「クリーン鹿島ボランティア・ロード」として四半期に一度ですが清掃活動に取り組んでいます。通称“百メートル道路”と呼ばれる「平和大通り」から繁華街の「本通り」までの国道54号・電車通りの400m区間において、お揃いの帽子に作業服で頑張っています。



清掃活動の様子



「クリーン鹿島ボランティア・ロード」の面々

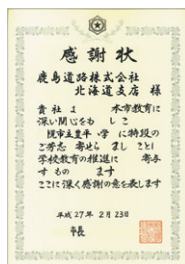
○ 札幌市立豊平小学校

玄関への手摺り設置と木製の円形本棚の寄贈

北海道支店では、国道36号札幌市豊平電線共同溝設置工事において、施工中の安全対策などに理解と協力をいただいた、豊平小学校に、高齢者用の手摺りを玄関2カ所に設置しました。また、本の置き場に困っているということを知り、木製の円形の本棚を寄贈しました。手摺りは札幌市よりユニバーサルデザインとして認められたほか、感謝状を授与いたしました。



本棚の寄贈



札幌市長からの感謝状



手摺り設置

○ ちびっこサッカーフェスティバル開催

2014年6月に北海道支店主催による第13回ちびっこサッカーフェスティバルが札幌市内において開催されました。この大会は、通常の公式試合に出場できない小学校2年生以下の子供たちが対象で、子供たちに試合経験を積ませるために2002年から毎年開催しています。今回は24チーム、291人の子供たちが参加し、熱戦を繰り広げました。2013年には地域スポーツ振興に貢献したとして北海道知事から表彰を受け、今回からは北海道の後援も受けています。



大会の様子



信頼される企業をめざして

当社は、すべてのステークホルダーの皆さまに信頼される企業であり続けるため、鹿島グループの一員としてコンプライアンスを徹底し、リスクを管理しながら業務を適正に遂行するための内部統制システムの整備を推進しています。

1 コンプライアンスの徹底

○ 鹿島グループ企業行動規範の浸透

健全な企業活動を行うためのしくみの一つとして、「鹿島グループ企業行動規範」を採択し、全役員・社員の理解と実践を促しています。

また、毎年eラーニングによる研修で、企業行動規範が理解され、浸透しているかを確認し、コンプライアンス意識の継続的な向上を図っています。

○ 談合防止体制の運用強化

社長を委員長とする独占禁止法委員会を設け、談合防止体制の整備および法令遵守状況の確認などを継続して実施しています。

また、毎年鹿島建設の主催する独占禁止法研修会に参加し、法令遵守の意識の啓発を図っています。

なお、2015年1月に2011年の東日本大震災に係る復旧工事などにおいて、独占禁止法違反の疑いがあるとして、当社本店ほか公正取引委員会の立入調査を受けました。

これを受けて、全支店で入札プロセスの総点検を実施するとともに、さらなる体制強化として、本店での緊急独占禁止法委員会の開催、弁護士による講演会および各支店で周知会を開催し、留意事項の周知を行っています。また、モニタリングによるフォローも行うことにより法令遵守の徹底を図っています。

○ 反社会的勢力排除体制の確実な運用

全役員・社員が一体となって反社会的勢力との一切の関係遮断に取り組んでいます。「反社会的勢力対応規程」および「反社会的勢力対応の手引き」に基づき、取引先の事前確認、契約書への反社会的勢力排除条項の導入、外部専門機関との連携など、反社会的勢力排除体制を確実に運用しています。

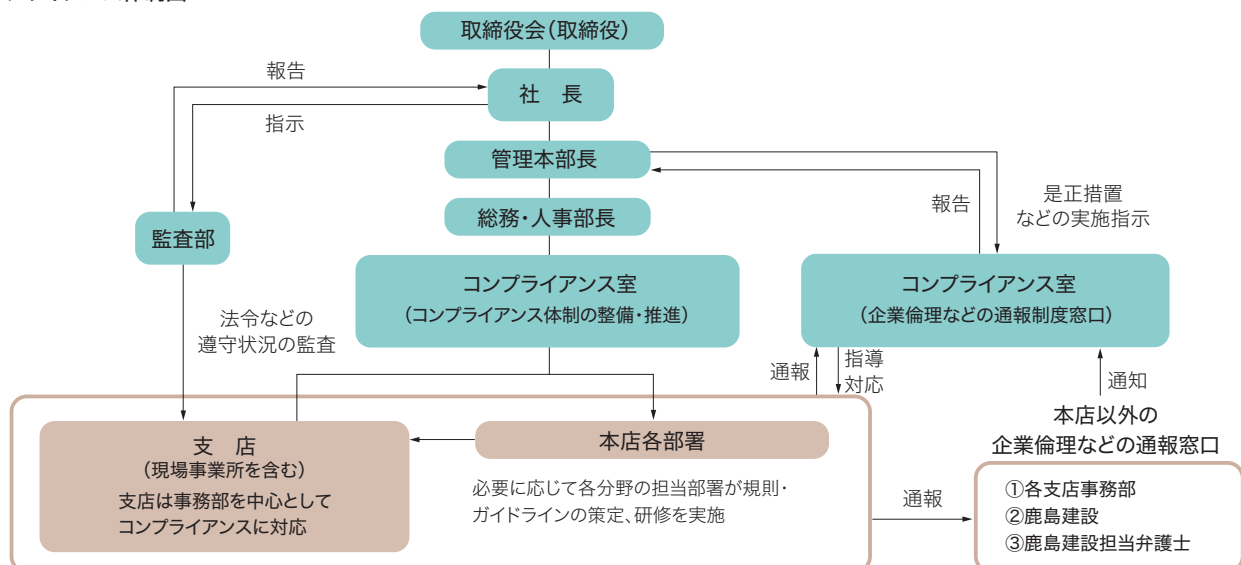
○ 適正な下請取引および施工体制の徹底

建設業法や下請法等関係法令の遵守、監督官庁や発注者から示される指針・ガイドラインに適切に対応すること、および協力会社との共存共栄を目指して、本店・支店・現場が一体となり、下請取引および施工体制の適正化に取り組んでいます。

○ 内部通報制度の整備

役員・社員などによる法令違反や不正行為の発生（あるいはその兆候）を知った者から直接通報を受け付けるホットライン・企業倫理などの通報制度を整備しています。

コンプライアンス体制図



昨今、政府機関や企業を狙った「標的型攻撃メール」の被害をよく耳にする機会がありますが、私も日々注意し業務上電子メールを使用しており攻撃メール対応訓練などに積極的に取り組み、情報セキュリティ対策行動規範や情報セキュリティ強化対策ハンドブックを活用するなど意識向上につなげ、業務に取り組んでいます。

九州支店大分営業所 事務 坂元 克弥



2 情報セキュリティと企業としての信頼

○ 情報セキュリティの意識向上

顧客および取引先の信頼を得るため、個人情報をはじめとした顧客情報や企業情報などを保護する目的で「情報セキュリティポリシー」※を制定しています。

これは、社員が情報資産をどのような脅威からどのように守るかに基づく基本的な考え方と、情報セキュリティを確保するための具体的な行動を示した規程です。

また、ネットワークを利用したeラーニングと自己点検を通して情報セキュリティ啓蒙教育を行い、定期的な情報セキュリティパ



新入社員研修における情報セキュリティ教育

トロールによりその効果を確認しています。

※ 情報セキュリティポリシー：「情報セキュリティ規程」、「情報セキュリティ対策行動規範」、「情報セキュリティ実施要領」によって構成

2014年度の活動内容

2014年 4月	Windows XPパソコン利用停止
2014年 8月	情報セキュリティ eラーニング実施(全社員)
2014年 9月	情報セキュリティ自己点検(全社員)
2014年11月	情報セキュリティパトロール実施(北日本、横浜、北陸、中部)
2015年 3月	電子メール誤送信防止ソフトの導入

3 内部統制への対応

○ 会社法におけるリスク管理と活動内容

法令、品質・生産、労働安全衛生をはじめとした様々なリスクを把握・特定することから始まり、リスクの発生防止と低減のために全社的活動を実施しています。また、仮にリスクが実際に発生した際には、リスクによる被害を最小限に抑える措置を講じます。

2014年度の活動内容

6月	各部署、各支店、子会社ごとに「リスク自己点検実施計画書」を作成し、鹿島建設に提出しています。
9月、12月、3月	計画書に基づき実施した結果を、年に3回監査部へ提出しています。
1月	その前年の12月までの実施記録を取り纏め、経営者に報告の上、鹿島建設に提出しています。
5月(次年度)	一年間のリスク自己点検実施記録を取り纏め、「リスク管理委員会」を開催し、取締役会に諮っています。

○ 金融商品取引法における内部統制内容

財務報告に係る内部統制が有効に機能していることを確認するため、内部統制運用状況の自己点検を実施し、不備事項が発見された場合は、改善確認と再評価を実施しています。

2014年度の活動内容

- 1 監査部が各支店の業務プロセスについて、自己点検結果に基づき評価をしています。
- 2 鹿島建設から金融商品取引法に関する監査を受け、結果について取締役会に諮っています。

○ 会計業務監査の実施

支店および管下事業所、子会社の会計業務監査を実施しています(法規・社内リスク自己点検・ルールの遵守度チェック)。

2014年度の活動内容

期首に計画書を作成し、規程、ルールからの逸脱がないかどうかを毎月監査し、社長ほか役員に報告書を提出しています。改善を要する点については関連部署にも報告しています。

4 著作権の対応について

○ 著作権の対応内容

新聞、書籍、地図などの著作物を無断で複写または電子化し、業務で使用することは、著作権法違反に当たるため、適切に対応していく必要があります。当社は新聞、書籍、地図について各法人と複製利用許諾に関する契約を結び、それ以外の媒体についても都度許諾を得ることにより、著作物を複製し情報伝達や資料に利用しています。

主な利用承諾先

新聞	日本経済新聞社・日刊建設工業新聞社・日刊建設通信新聞社・日刊建設産業新聞社ほか
書籍	公益社団法人日本複製権センター
地図	株式会社昭文社



信頼される企業をめざして

5 鹿島道路の人材

当社では、様々な個性や能力を持った社員が働き、社会に貢献しています。採用においては、大卒、高卒、経験者、障がい者など幅広い人材を対象としており、国籍、性別、年齢、障がいにとらわれない採用を実施しています。入社後は、土木・建築・製品・機械・営業・事務など各部門において研修などの教育の充実を図り、人材育成に努めています。また、より働きやすい、働きがいのある職場に向けて、会社全体が常に改善を心がけ取り組んでいます。

人事データ

	2012年度	2013年度	2014年度
社員数(名)	985	975	1,016
新入社員数(名)	31	34	44
再雇用者数(名)	33	32	26
障がい者雇用率	1.58%	1.68%	1.99%
離職率※	12%	5%	15.3%
育児・介護休業取得者数(名)	0	2	6

※ 入社3年以内に離職した比率

6 お客様からの表彰

2014年度も多くのお客様より品質・安全に優れた工事に対する表彰や災害復旧、その他社会貢献活動に対する感謝状をいただきました。

これらの表彰は、お客様からの期待に応え、社員が気概を持って取り組んだことによっていただいたものです。2015年度も当社はお客様に感動してもらえる作品づくりを目指して努力していきます。

お客様からの表彰などの件数

国土交通省		中央官庁	NEXCO	団体・民間	計(件)
局長	事務所				
2	7	4	5	48	66

7 社内外とのコミュニケーション

○ イメージキャラクター“かじまる”と企業広告

当社はイメージキャラクター“かじまる”を制作しました。安全具・安全掲示物・販売促進用のグッズなどで、幅広く利用されています。また、企業広告を制作し業界関係誌や新聞への広告を展開しています。これらは、社外へ発信することによりお客様や地域住民の方々とのコミュニケーションにつながるだけでなく、社内のインナーコミュニケーションにも一役買っています。今後もさらなる展開を図り、鹿島道路のイメージアップに貢献していくことが期待されています。



イメージキャラクター“かじまる”



企業広告

○ 子会社とのコミュニケーション

鹿島道路グループでは施工・保険・リースなど多方面にサービスを展開しています。

当社は子会社と業務の連携(コラボレーション)を深め企業価値向上に向けて取り組んでいます。

日ごろから関係部署との連携をはじめ、関係会社へのヒアリングを行い、今後の展開を常に検討しています。

今後も鹿島道路グループと一体になって社会に貢献していくために努力していきます。

企業や組織においては、たった一人の不注意がウイルスへの感染や情報漏洩といった脅威につながることもあります。社員一人ひとりが情報セキュリティ対策の重要性を認識し、自覚を持って取り組む必要があるため、全社員に対し情報セキュリティ関連規程の周知徹底や教育を行い、情報セキュリティ事故の未然防止に努めています。

本店 情報システム部 課長代理 森田 一巳



◎ 会社案内による情報発信

2014年、会社案内をリニューアルし、営業活動や採用活動において配布しています。当社の施工実績を事業別に大きく写真で取扱い、お客様や学生の皆さまに当社への興味をより強く持っていただければと思っています。



会社案内

◎ 意見交換会の実施

当社の社員を若手・中堅・ベテランの3層に分け、社長との意見交換会を開催しました。2014年度は首都圏地区、西日本地区にて実施し、各層の社員から業務改善・教育・環境改善など様々な意見が出ました。この意見交換会で今後全社として対応していくことをまとめ、2015年度の改善に努めています。



意見交換会

◎ ホームページからの情報発信

ホームページに会社情報をはじめ、技術や施工実績などを公開し、最新の活動内容をお届けしています。(http://www.kajimaroad.co.jp/) また、施工や技術、採用などについて幅広く、皆さまからのお問い合わせを受け付けていますので、どのようなことでもお問い合わせください。



鹿島道路ホームページ

◎ 技術情報誌『KIT』の発行

2001年より技術情報誌『KIT』を発行しています。当社の技術や工法、施工実績、安全への取り組みなどの情報を年4回(4・7・10・1月)発行し、社内外のコミュニケーションツールとして活用されています。



技術誌『KIT』

第三者意見

CSRレポート発刊によせて



溝呂木 敦
Atsushi Mizoroki

略歴

ソプリン・コンサルティング株式会社 代表取締役
高砂香料工業株式会社 安全統括本部 顧問
インプレッション株式会社 取締役
Certification International(UK)
Limited-Executive Corporate Adviser
CFE 公認不正検査士
CCSA 内部統制評価指導士

リスクマネジメントベースの企業経営に関する専門家として、事業運営、製品開発、製造、リソース管理、サービス、コンプライアンス、環境対策、IT/セキュリティ対策、エンパワーメント、倫理行動、法務、事業、国際事業、安全対策の分野に“システム”(=仕組み)を導入することで、成長促進とCSRの実現に向けて多くの企業をサポートしている。

今年は横浜市の大型マンションにおいて、杭の長さ不足と施工時のデータ改ざん事件が世間を揺るがしました。事件の背景と原因は、詳しい調査を待たなければ軽々に断定することはできないものの、報道では杭打ち工期終盤での杭の長さ不足発生が工期延長につながることも事件の一因ではないかと報じられています。(注:この杭は継ぎ足しができないものだったため、追加発注する必要があった。)

この事件の教訓として、鹿島道路の施工現場に於いても設計想定外の事態に現場で遭遇した場合のハウレンソウと的確な対応が確実に保証されているか、自社の施工現場を見直す必要があることを示しています。建設と道路の違いはあっても、施工品質の管理は共通概念であるだけに、対岸の火事としないことが求められます。

私は昨年の第三者意見で『死亡災害とこれに伴う処分を受けることとなった点は、企業として真摯に再発防止に取り組むべき事態です。『新5K』の実現のためにも、来年度のCSR報告書で取り組みの成果が示されることが望まれます。』と述べました。

これに対して、本報告書では重点課題を絞り、事故の事例集などを展開することも併せて計画以上の成果につなげています。この

事実をデータによって確認できたことは、繰り返し災害を発生させないように日々現場において安全活動に励んでいる証であると思います。但し、一昨年の死亡災害に引き続き、昨年度も重篤災害が発生してしまったことは誠に遺憾です。これまでの事故原因と対策の過程で『原因の深掘り』がしっかりできていたのか、レビューが不可欠であると考えます。

中期経営計画では3本柱の1つに「働き甲斐のある質の高い会社の構築」が挙げられている中、障がい者雇用率が向上したのは好ましい結果です。しかし、離職率も上がってしまっています。この点は、鹿島道路の将来性を大きく毀損することになるという危機感を持って、人の定着に新たな策を講じる必要があります。

昨今ではCSRの延長線として、「CSV: 共通価値の創造 (Creating Shared Value)」という概念が提唱されています。これは、社会的な課題の解決と企業の競争力向上を同時に実現する考え方です。鹿島道路の本業を通じてのCSR経営の実践が、社会と社との間の共通の価値を創造するものとして事業戦略に生かされることを『ステークホルダー』は期待しています。

第三者意見を受けて



専務取締役 生産技術本部長
篠木 隆男

溝呂木敦様には広い視野に立った貴重なご意見を賜わり感謝申し上げます。

昨年の報告書にてご指摘いただきました、労働基準法違反の再発防止につきましては、労働時間と休日取得の社内システムによる確認と指導、東京支店の「業務改善時短推進チーム」による取り組みなど、全社的な活動を継続的に進めています。

また、今回は品質・安全・人材に対するご意見を頂戴いたしました。

品質については、社会のニーズを考えた技術開発、情報化施工など生産性向上の取り組み、改善事例の水平展開など日頃より現場力・施工力の向上に努め、ステークホルダーの皆さまに感動してもらえる作品づくりを目指しています。

安全については、昨年度発生した事故について本支店による緊急パトロールの実施や事故事例の展開などを実施してまいりましたが、災害が発生してしまっていることは大いに反省すべきところであります。溝呂木様からご指摘いただいた『原因の深掘り』を確実にを行い、再発防止に努めてまいります。

人材については、離職率の上昇は改善していく必要があります。当社にとって最も大切なのは『人』です。先に述べたワークライフバランスの推進に向けた対策を講じ、働き甲斐のある充実した職場づくりを目指しているところであり、さらなる改善を図り、人材を定着させてまいります。

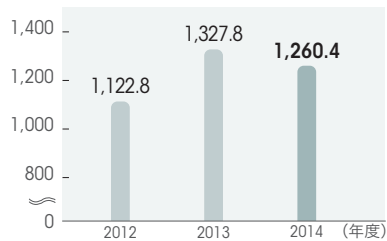
当社は、これらの課題に対してそれぞれの質を向上させ、『新5K』を実現・実感することで、ステークホルダーの皆さまから大きな信頼が得られるものと考えています。今後も当社はCSR活動を積極的に推進し、社会と当社が共通の価値を創造していけるよう努力してまいります。

会社データ

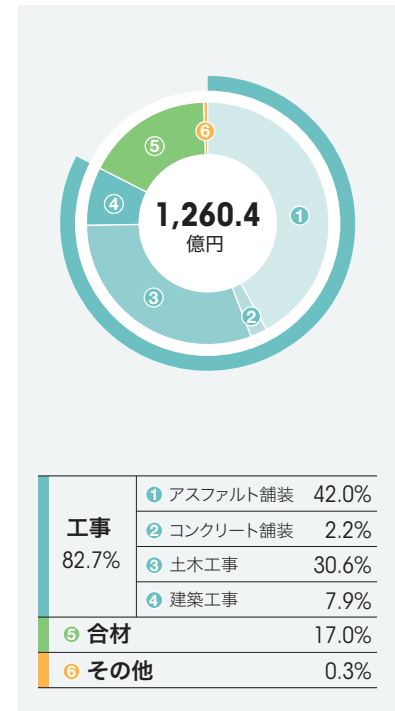
コーポレートデータ

商 号	鹿島道路株式会社
設 立	1958年2月18日
所 在 地	〒112-8566 東京都文京区後楽1-7-27 03-5802-8001
資 本 金	40億円
従業員数	1,016名
事業所数	支店：10ヶ所 営業所・出張所：76ヶ所 合材製造所：61ヶ所

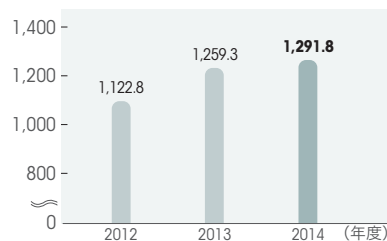
受注高
(億円)



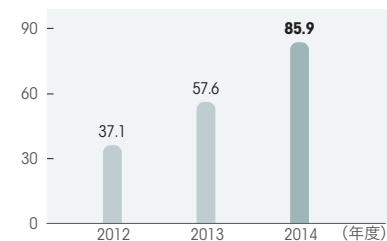
セグメント別受注高



売上高
(億円)



経常利益
(億円)



支店一覧

- 北海道支店
〒006-0033 北海道札幌市手稲区稲穂3条3-9-15
011-699-7744
- 東北支店
〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町2-15 二日町鹿島ビル
022-216-8501
- 関東支店
〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂4-6-9 鹿島浦和ビル
048-872-8001
- 東京支店
〒112-004 東京都文京区後楽1-7-27後楽鹿島ビル7F
03-5802-8021
- 横浜支店
〒220-0001 神奈川県横浜市西区北郷井沢63
045-312-8061
- 北陸支店
〒950-0986 新潟県新潟市中央区神道寺南2-6-15
025-243-3851
- 中部支店
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-10-13 SC錦ANNEX 2F
052-204-0770
- 関西支店
〒540-0001 大阪府大阪市中央区城見2-2-22 マルイトOBPビル9F
06-6910-3701
- 中四国支店
〒732-0814 広島県広島市南区段原南1-3-53 広島イーストビル8F
082-567-4567
- 九州支店
〒812-8665 福岡県福岡市博多区博多駅前3-12-10 鹿島建設ビル
092-451-4356
- 機械センター
〒349-1125 埼玉県久喜市高柳2600
0480-52-1311
- 技術研究所
〒182-0036 東京都調布市飛田給2-19-1
042-483-0541



鹿島道路株式会社 経営企画部

〒112-8566 東京都文京区後楽1-7-27 03-5802-8003

<http://www.kajimaroad.co.jp/>



**NON
VOC**

本報告書は環境に配慮し、FSC® 認証紙を使用し、VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロのNON VOCインクを使用しています。